

## キャベツバーティシリウム萎凋病の 診断・対策支援マニュアルの作成

### 研究のねらい

婦恋村の夏秋キャベツ栽培において、土壌病害であるバーティシリウム萎凋病の発生が問題となっています。平成4年に当村内で発生が確認されたのを機に、関係機関と連携し、調査・試験研究を行ってきました。今回、蓄積された調査データをもとに「健康診断に基づく土壌病害管理（ヘソディム、HeSoDiM：Health checkup based Soil-borne Disease Management）」に基づいたキャベツバーティシリウム萎凋病の診断・対策支援マニュアルを作成しました。



図 圃場の診断による土壌病害管理

### 技術の特徴

- 1 診断による発病レベルの評価  
まず、地上部の病徴および収穫時の結球部の切り口の褐変によって、表1を参考にレベル1～3の3段階評価を行います。
- 2 発病レベルに応じた対策の判断  
次に圃場の発病レベルに応じ、次年度の対策が必要かを表2を参考に判断します。
- 3 評価に基づく対策  
対策の必要性が判断できたら、次に表3

を参考に、どの防除技術を導入した方がよいのかを決定します。

表1 圃場の状態（発病しやすさ）の評価

圃場の外観	収穫時の結球部 切り口の褐変	レベル
異常なし	褐変なし	レベル1
黄化・萎凋した株がある	褐変した株あり (5%未満)	レベル2
黄化・萎凋した株がある	褐変した株あり (5%以上)	レベル3

表2 レベルごとの発病の程度と対策の必要性

レベル	発病の程度	次年度の対策
レベル1	なし～軽度	現在の栽培を継続 発病調査を継続
レベル2	中程度	対策が必要
レベル3	重度	対策が不可欠

表3 レベル別の対策技術

レベル	エンパク 野生種	作型の 変更	抵抗性 品種	殺 線虫剤*	土壌 くん蒸剤*
レベル1	○		現在の品種		
レベル2	○	○	中～強	○	
レベル3	○	○	強		○

※可能であれば、実施することをお勧めします。

### 4 マニュアルの有効性

平成26、27年度の実証試験では、本マニュアルによる対策技術を導入した場合、被害を5%未満に抑えられる確率が94%でした。

### 今後の取り組み

普及指導機関、JA等と連携し、本マニュアルの利用をすすめ、夏秋キャベツ産地の持続的発展に貢献します。

〈本技術は農林水産省農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（25056C）の支援により開発されました。〉

（執筆者：三木 静恵）